

**平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業
最終評価表**

実施団体	くらしのたね		
協働部署	庭園都市推進課		
記入日	H30 年 3 月 20 日		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
事業提案書に記載された「期待する事業成果・目標値等」または事業を通じて意識されていた目標を一枠に一項目ずつご記入ください。	「成果・目標値等」に対する結果をご記入ください。	「目標に対する結果」に至った要因や工夫されたこと、うまくいかなかったことなどをご記入ください。
「岡山市操車場跡地の公園整備事業における市民協働の場づくり」 ・市民の会設立	・理解や共感に違いがあるが多様な人が参加した。 ・関わり方がさまざまだが市民の会発足後、会員が増えて現在39名となった。	・HPを作成し、プロジェクトの発信など進めたかった。 ・こども・健康・農園分野で関心ある人を増やしたい。 ・市民の会の運営をしてくれる人も欲しい。 ・会費や助成金に頼らない資金調達の仕組みを考える。
「市民の会」の登録者に対しての継続的に情報提供を行い登録者の関心の維持と説明責任を果たす ・土曜日の草の根会 ・フォローアップ	・Facebook ページ立ち上げた。 ・草の根会議を土曜日に43回開催。 ・市民の会として26回開催した。 ・ESD 推進課の後援を受け、メーリングリストで情報発信した。 ・テーマ設定しなかったので「子ども」「健康」「農園」に関心が高いと知ることが出来た。 ・エディブルパーク(食べられる公園)をテーマにした会を2回開催し、宮城や佐賀からを含め92名の参加者がいた。	・予めテーマを設定していれば、草の根会がより参加しやすい人もいたかも知れない。 ・広報が Facebook だったためか高齢者の参加が少なかったため今後は広報媒体を増やしていきたい。
プロジェクトまたはコミュニティの新規発足 : 1件以上	・どのような公園にしたいか、公園づくりにどう関わりたいのか、市民の会にアンケートを行い「市民の会世話人会」と「子ども」「健康」「農園」3つのプロジェクトが発足した。	・もっと早いスケジュールで進めたかった。 ・専門家の意見をもっと聞きたかった。 ・実働できる仲間をもっと集めたい。

2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	☑	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	☑	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	☑	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	☑	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	☑	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	☑	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	☑	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	☑	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	☑	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	☑	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	☑	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	☑	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	☑	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	☑	④ 実施団体だけに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	☑	⑤ 協働部署だけに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)
自主性及び自立性尊重の原則	☑	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた
	☑	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	☑	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	☑	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	☑	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)
公開の原則	☑	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	☑	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	☑	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	☑	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	☑	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた